

洗足学園音楽大学附属図書館 洗足こども短期大学附属図書館

Page 1

第14巻 第1号

発行日 2023年6月26日

巻頭言

館長 大江千佳子

目次

巻頭言	1
私の推薦図書 森田 順平 先生	2
私の推薦図書 伊藤 路香 先生	3
図書館からのお知らせ	4

春の日差しを感じながら入学された1年生の皆さんは、そろそろ洗足の生活に慣れてきた頃でしょうか。図書館にも多くの新人職員が入りました。戸惑いながらも真摯に先輩から仕事を習う凛とした姿に頼もしさを感じ、今後さまざまな提案、企画をしてもらえると期待しています。みなさんの学生生活が充実するサポートを図書館職員も取り組んでいきます。また、図書館サポーターという名称の10数名のステューデントアシスタントが今年度も活動しています。利用者の資料検索のお手伝い、返却された資料の配架、館内見回りなどの業務の一部を担うと同時に、各自の専攻分野の研究に役立つ資料のリクエスト作業を通して、学生目線での図書館のあり方を考えてもらっています。館内でおわかりにならないことは職員またはサポーターにお尋ねください。

ここで本館のいくつかの取り組みをお知らせします。

●2019年より図書館独自にミニセミナーを行っています。学部、短大、大学院の在学生どなたでも参加可能です。昨年はグラフィックデザインツール「Canva」をテーマに、名刺を作成しながらツールの使用方法をマスターし、講師の先生から個性的なデザインについて学ぶ講座を開催しました。毎年セミナーの内容は異なりますが、日頃の授業とは違い気軽に受講できる単発講座のため、興味あるテーマの回にはぜひ参加してみてください。

●入り口の横には、メモリアルイヤーの作曲家や、季節にちなんだ作品をピックアップした特集コーナー、作曲家の自筆譜ファクシミリの展示台、主に短大生向けに幼児教育図書レコメンドコーナーを設置しています。特集で取り上げた作品の簡単な紹介文も掲示していますし、窓際や本棚にちょっとした装飾グッズを置き、季節を感じられるようインテリアにもこだわっていますので、授業やレッスンの合間の息抜きに立ち寄っていただければと思います。

●年に2回発行の「図書館だより」では、さまざまな先生方から学生のみなさんへのお勧め図書、CDの紹介ページを作っています。毎号必ず大学音楽学科の先生と短大幼児教育保育科の先生に書いていただいています。ご推薦の本やCDそのものも興味深いものが多いのですが、先生方が書かれている紹介文が素敵です。プロとして活動される中から得られたさまざまなご経験やお考えが書かれていて、お人柄あふれる文章が掲載されています。こちらも是非お楽しみください。

●来館せずに利用できる資料もあります。例えば、ライブラリエ（スマホから電子ブックの閲覧貸出）、ナクソスミュージックライブラリー、ナクソスジャズ、ヘンレ出版の楽譜アプリ、Oxford Music Online、MGG onlineなど。これらのデータベース、アプリの使用方法についてはSENZOKUポータルに掲載の「ポータルブック」をご覧ください。

今年一年の皆さんの学修、研究が実り多いことを願っております。

私の推薦図書

森田 順平 先生 (声優・アニメソングコース)

書名：『「魅せる声」のつくり方—3大
新理論があなたの印象を変える』

著者名：篠原さなえ

出版社：講談社

刊行年：2012年12月21日

ISBN：9784062577960

僕がこの本の著者、篠原さなえさんに会ったのは、ある声優養成所の講師の懇親会でした。彼女に「どんな指導をされてますか」と聞かれ答えたら、「驚きました、私と全く同じです!」と言われ、そこから正しい腹式呼吸や発声の基本などの考え方について一気に話が盛り上がりました。その後も、指導のスキルアップを目指してお互いの考えを交換する等の交流をしていますが、僕との大きな違いは、彼女にはそれらを本にする能力があったということですね。

「本にしました」と彼女から連絡があり、早速手にして読んだところ、感動と共に深く感心させられました。全8章で構成されているこの本の第3章までは僕らの一致する内容が網羅されているのですが、第4章からは、僕とのもう一つの違いと言えるすごい内容が展開されていきます。どこが「すごい」のかと言うと、日本語の母音・子音50音全ての（濁音を含めると75音になりますが）舌の位置を図解を載せて分かり易く説明してくれていることです。

我が国の学校には、日本語の発語の正しい舌の位置を教える授業は無いようです。海外では母国語の発語を小学校から指導している国もあるというのに恥ずかしいことです。文科省もその辺を考えて欲しいところですが、篠原さんはそれをこの本で見事にやってくれました。

俳優や声優に限らず、日本人が皆この本を読んでくれれば、正しい日本語が生まれること間違いなしです。日本人だけではありません。当大学にはたくさんの留学生がいます。彼等の日本語の勉強にも持って来いのテキストになるでしょう。大学では、中国との交流の一環として、中国の高校生による「アフレコ大会」というものを毎年やっていますが、その賞品にもこの本を使わせてもらっています。

本ではさらに、鼻濁音、母音の無声化、アクセントに至るまで彼女独自の分かり易い解説をしてくれていて、特に声優にとってはハンドブックにしてもいいと、学生たちには必ずこの本を紹介しています。是非皆さんも、この本を読んで日本語の再認識をして頂ければと思います。



私の推薦図書

伊藤 路香 先生 (短期大学)

書名：『保育者の地平—私的体験から普遍に向けて』

著者名：津守真

出版社：ミネルヴァ書房

刊行年：1997年5月15日

ISBN : 9784623027422

保育や子どもについて考える上で、大切にしたい考えに出会える一冊として『保育者の地平』を紹介します。この本の著者である津守先生は、児童心理学の研究者として人生の大半を過ごし、その後保育実践の場に身を移し、^{がい}障害のある子どもとともに過ごされました。

私がこの本に出会ったのは、保育を改めて学ぼうと大学院に入学した頃でした。私自身保育者として、障害を持った子ども、とりわけ「人との関わりに難しさを抱える子ども」の保育に日々悩み、試行錯誤の毎日を過ごしていました。今思い返すと、保育者としての願いと^{くじ}して子どもがこの先の人生において、人との関わりで挫けてしまわないように…と、ただただ一生懸命にその子どもの「未来」を心配して、どのように関わるべきかを模索していたように思います。

本書の中で津守先生は、「出会った子どもと、たとえ短時間でもともにいる『いま』を充実させてかかわるところから、未来が展開する。子どもとともにいる『いま』をたいせつにすることが、保育の実践ではかなめをなすことを、私は自分が毎日子どもと過ごすようになってから認識した」と述べられ、「いま」を充実させることの意味を、津守先生の私的体験から伝えてくれています。それまで「未来」に視点を置き思い悩んでいた私にとって、この「いま」に視点を置く考えは大きく影響を与えました。決して理想論でも、方法論でもなく、津守先生ご自身が敢えて「いま」にとどまって子どもと関わったことで、思わぬ発見が得られたこと、関係の質が変化したことが紹介され、そこから見出される普遍…。この普遍は、障害のある子どもの保育や子どもについて考える上だけでなく、障害のない子どもの保育を考える上でも、さらには自分が関わる社会や人との関係について考える上でも、私にヒントを与えてくれます。

保育現場には、障害の有無に限らず多様な子どもがいます。その多様さに、大人は嬉しい気持ちになったり、時には困惑したりします。そんな時、何を根本に据えて保育をしていくか…。是非、保育者を目指す皆さんの人生の傍らに置いて、迷ったときに開いてほしい本です。



図書館からのお知らせ

楽譜、CDの予約・貸出期間延長

昨年度までは資料の予約・延長は図書資料のみでしたが、
本年度より楽譜、CDも予約・延長が可能となりました。
手続きはマイライブラリより行うことができます。是非ご活用下さい。

2023年度新入生ガイダンス

4月に大学院、大学の1年生を対象、5月に短期大学の1年生を対象に図書館ガイダンスを実施。
図書館の利用方法を始めとした、学生生活に役立つサービスのご説明、ご案内をしました。
困ったことがありましたら職員にお気軽にお声がけください。
豊かな学生生活を送れるよう微力ながらサポートいたします。

